

着信アリ Final

2006(平成18)年6月12日鑑賞(東宝試写室)



監督=麻生学/企画・原作=秋元康『着信アリ Final』(角川ホラー文庫刊)/出演=堀北真希/黒木メイサ/板尾創路/ジャン・グンソク(東宝配給/2006年日本映画/105分)

……ハリウッドでのリメイクが決定した大人気シリーズの「Final」の舞台は、修学旅行先の韓国の釜山。「いじめ」の加害者たちへの復讐は、おなじみの「死の着メロ」だが、今回は転送すれば死を免れることができるという新工夫が。そんな表示を見たクラスメートたちは、次第にパニックに……。いじめにあった2人の美少女の友情を軸とした「呪いの連鎖」は、ホントにFinalを迎えることができるのだろうか……？

『着信アリ』は世界に発信!

日本発のホラー映画は数多いが、ケイタイへの着メロが死の恐怖を呼ぶという秋元康の原作が現代人の共感と呼んだのか、『着信アリ』(04年)は大ヒットし、続く『着信アリ2』(05年)も大ヒット。その恐怖は日本のみならず、アジア全体に伝播するとともに、第1作は『One Missed Call』(仮題)としてハリウッドでリメイクされることも決定。日本版ホラーの実力をまざまざと見せつけているが……。

最近の修学旅行は超豪華……

今回の舞台は韓国の釜山。ここを訪問するのは、木部先生(板尾創路)らに引率された約30名の高校生男女。安城高校2年C組の修学旅行先が、韓国の釜山というから驚き……？ そして、旅行中のお互いの連絡のため、各自に支給されたのが携帯電話。楽しいはずの船旅だったが、まずは船室の中で、1人の女生徒のケイタイに印象的なメロディーの着メロが鳴った。それを取ると、よく聞き取れない声とともに、その女生徒の首吊り姿が……。こりゃ一体ナニ……？ たち

まち、その部屋に集まっていた友人たちは騒然となったが、その時はまだ、これから起こってくる惨劇を予想している者は誰もいなかった……。

今回の新工夫は……？

「着メロが鳴ればあなたは死ぬ」というのが『着信アリ』の約束ゴトだが、今回は「転送スレバ死ナナイ」という新工夫が加わったのがミソ……。1度目、2度目の惨劇を目の当たりにした生徒たちは、さて誰に転送しようかと悩むのは当然。問題は、この転送は1回だけしかできないとされていること。そのため、そこから起こるパニックは、今まで仲間だった同じクラスだけに大変。着メロが鳴ったケイタイを取りあげたあの仲間、この仲間は、さて誰に転送するの……？

今回は2人の美少女が……

最近のホラー映画の見どころの1つは、美少女の登場……。『着信アリ』第1作は柴咲コウ、第2作はミムラだったが、今回の『Final』は、最後の大サーベスとばかりに松田明日香役で堀北真希、草間えみり役で黒木メイサという2人の美少女を登場させている。明日香とえみりは小学校からの幼なじみだが、なぜか明日香は、今回は楽しいはずの修学旅行に参加していない。それは明日香が、クラスの中でいじめにあったため。そして、明日香がいじめにあったのは、最初にいじめにあっていったえみりを助けたため。そんなえみりは、明日香がいじめにあってのを助けることができなかったという「弱い自分」に悩みながら、修学旅行に参加していたが……。まあ、単調なストーリーであっても、こんな美少女2人を鑑賞できればそれだけでよしとしなければ……。

手話で語る韓国のイケメン俳優は……？

人気の美少女2人を配役したためか、韓国人俳優はイケメンながら、日本映画初出演のジャン・グンソクを登場させた。彼は1987年生まれというから、ともに1988年生まれの堀北真希や黒木メイサと年齢的なバランスもうまく保たれている。なぜ日本からの修学旅行に韓国人男性が登場するのかというと、それは、えみりが日韓手話交流会で知り合った韓国人のボーイフレンドのアンジュヌ役として……。

それにしても、韓国への修学旅行で、プライベートのボーイフレンドと現地デートできるというのは何とも優雅なもの……？ もっとも、このアンジヌは聾啞者であるため、もっぱら手話での演技だから大変。しかし結構重要な役割を演じている。すなわち、死の着メロを止めるアイデアは、実は彼の発案。彼のアイデアに沿って、韓国のネット愛好者が一斉に……。私にはよくわからないが、こんなことってホントにあるのかもしれないナと一瞬思ってしまうほど……。

ここにも「偽装」先生が……？

1人、2人と犠牲者が生まれる中、あの着メロが鳴れば、そのケイタイの主は必ず死ぬという、本来はありえないバカげたうわさが広がり生徒たちに動揺が広がっていった。そんな時、冷静に生徒たちの動揺を抑えるのが、引率責任者である先生の役割。そんな木部先生は、生徒たちにケイタイによる動揺がこれ以上広がるのを防止するべく、1度みんなに手渡していたケイタイを回収しようとしたが、中にはそれに反対する生徒も。だって、回収されてしまったら、誰のケイタイの着メロが鳴っているのかわからなくなってしまうのだから……。

「お前、そんなバカげた話を信じているのか！」と一喝して、ケイタイを袋の中に回収した木部先生だったが、その狙いは、何と「こうすれば僕のケイタイに転送してくる奴はいないでしょ……」ということ。いたいた、ここにも偽装先生が……。ホテルのエレベーターの中で、それを聞いていた相棒の女先生は啞然としたが、そこで突然鳴った着メロは回収した袋の中からではなく、その木部先生のケイタイ。そんな偽装先生の行き着く先は……？

犯人は誰……？ 着メロの連鎖を止めることは……？

1人また1人と着メロを鳴らしているのは、予想どおり(?)、修学旅行に1人参加していない明日香。明日香は自らの復讐のために(?)パソコンを駆使して、順番にクラスメートを……。しかし、それはホントに明日香の意思にもとづくもの……？ そして、そんなパソコンのマウスからの指令を逃れる術はあるの……？ さらに、明日香とえみりの2人の「いつか2人で海を見に行こうね」という約束を実現することはできるのだろうか……？ 2006(平成18)年6月16日記